

## 第3回 学校運営協議会記録

### 1. 学校長挨拶

開催時期不適。地教法に合わせるため。申し訳ない思い。大学入試の英語新テスト延期、生徒へ説明した翌日に文科の発表。一部授業料の無償化。予算措置の遅れの余波から、JASSOの奨学金確定が大幅に遅れた。資金の準備に苦勞して、公的機関等から支援を受けるに至った生徒が複数いた。

フロア入れ替えの件。生徒は全般的に厳しい反応。特に2・3年生。今後教員集団として生徒と深く関わられるようにしたい。

### 2. 取り組みの進捗状況

1年主任・2年主任・3年主任・教務部・進路指導部・生徒会・生徒指導部・総務部・保健部の順で報告。

### 3. 学校教育自己診断結果

生徒の回答率、前年89%→今年76%。2年生が修学旅行前の忙しい時期に行ったことも影響か。

⑩「成績は、テストの点だけでなく努力や授業態度などを含めて総合的に評価されている。」、⑪「成績不振の生徒に対して放課後や夏休みなどに補習を行い、学力向上に努めている。」について肯定値7割程度。去年より少し減少したが、絶対値として高い。学校として力を入れている成果か。

②「命の大切さや人権、社会のルールについて学ぶ機会がある。」70%、③「学校では、ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある。」70%、⑫「文化祭や体育祭や学年行事などに積極的に取り組むことができる。」76%、について肯定値高い。総合探究・行事等各学年の工夫の成果か。

④「学校では担任の先生以外にも悩みごとや相談ごとを聞いてくれる先生がいる。」について、肯定66%。おおむね教員との信頼関係が築けているようだ。

⑬「学校で地震や火事が起こったときの対応は具体的に知らされている。」について、否定値34%と高い。よりきめ細かく策を講じる必要がある。

⑧「学校の授業はわかりやすい。」67%について、昨年比で肯定値が減少。1年生58%に対して3年生は70%。全体として否定が4割近く。真摯にとらえなければならない。

保護者の回答率45%と厳しい。提出頂いた方だけの統計だが、肯定値が半数に届かなかった項目は無し。⑥「授業参観や文化祭・体育祭など、学校でおこなわれる行事には参加したことがある。」58%について、2極化している。「まったく当てはまらない」の値が26%。行事開催が主に土曜であることの影響か。

⑮「学校のインターネットを利用した情報提供（ホームページ・学校発信メールなど）に満足している。」65%について、昨年度比で肯定値13%増。ホームページ等活用の理解を促したい。

①「子どもは、学校に楽しく通っている。」保護者は81%肯定に対して生徒は59%肯定。認識に差がある。

③「学校の生徒指導の方針に共感できる。」について、否定値27%。担任の先生方のご苦勞が覗える。

### 4. 平成31年度（令和元年）学校経営計画

欠席・遅刻数を減らす目標。年度途中まで欠席は昨年度比で減少していたが、現時点では増加してしまった。「不十分」の評価。

懲戒目標30件、現時点で38件。学校外での事象が多い。昨年度比で3倍程度。それを除くと、去年より少ない。教師に対して力の論理を出すような件は2件。暴力でなく暴言。一年生を2階フロアにしたことにより、トラブルになる前に複数教員で対応できるようになった結果か。

HP の件は、修学旅の即日情報アップデートが活きたか。首席が頑張ってくれた。HP 全体もリニューアルして見やすくなった。

生徒にとって「楽しい」と見えるもの、「しかけ」を作る必要がある。人間関係が一旦崩れた時の修復が難しい。楽しい行事を増やす一方で、学力を伸ばさなければならない。一般的に、学校行事は減少の傾向。昔は、遠足も春と秋の2回行っていた。他校では、文化祭行った年は体育祭無い、もしくは3年生は不参加という学校もある。平野は行事多い方。総合・LHR 計画において、行事以外の必須事項も増えており、球技大会などを入れることも難しい現状。「不十分」評価。

AL。3校訪問。長野北高校には、発達障がいの子への指導という観点も含めて視察した。教員が個人的に見学訪問している例は他にもある。

中退・転学者数減っている。特に3年生は転退ゼロ。4階にフロア移動したことをかなり気にかけてくれて、4階の待機室も活用しながら丁寧に対応してくれた。現時点で去年より就職の決定率高く、84%。

数値は、少しずつ改善しているが、生徒のアンケート結果は厳しい。保護者のアンケートはほとんどの項目で上がっている。成果の指標としては「生徒」のものを使うので「不十分」評価。

## 5. 来年度学校経営計画について

中長期的目標は変えていない。今年数値下がったから。数値を戻すようにしたい。

2(1)イ. キャリア教育について。来年からキャリアパスポート(=小中高でキャリア教育やってきたことを記録に残す教材)を導入予定。一方、ジャパンEポートフォリオが「大学入試で使う」と鳴り物入りで導入されたが、今はどこへ行ったのか。文科に質問すると「管轄が違います。」「民間に移行してます。」「どうなるのか。本校ではキャリアパスポートにまとめた。

同友会との協力。2月の懇談会7~8年継続。今年は、新規事業で2年生7月には就職希望の生徒を対象に「職種」別の座談会を行った。積極的に質問する生徒もいた。街から仕事が減ってしまい、高校生がもつ働くイメージはコンビニ、居酒屋のアルバイト等。生徒にとって「新たな」働くイメージができる機会ができた。

超勤の縮減。厳しいところ。1年単位の变形労働時間制が導入されたら、健康が害されないか心配。現在でも100時間以上の超勤者いる状況。制度導入により表面上の超勤時間数は減るかもしれないが、実態としては勤務時間の強化になるのではないか。

「めざす学校像」は、定着するまで変えない。教員・生徒ともにずっと出てくるぐらいまで。

## 6. 協議

評議員：12月の40周年式典に出席。とても落ち着いていた。先生方の丁寧な準備が見て取れた。平野高校は当初12クラスから始まった。現在は6クラス。高校生の数は減っている。

校長として小学校から中学校へ赴任。私立高校の相談役も務めている。私学進学者が増加している。昔は公私間比率7:3=公:私だったのが、今は6:4。私立専願が増えている。公立希望減っている。平野高校にとっては定員割れ、シビアになっている状況。私学はいろんな工夫できる。成績による入学料減免・制服無料・大学進学保障等。パンフレット等もカラフル。公立は「公平公正」が求められ、このようなことはできない。気持ちが私学に向かってしまう。公立として何ができるのか。将来的には比が5:5になるのではないか。来週末から和歌山県の私学入試が始まる。その後、奈良県、大阪府の私学と続き公立高校の入試へ。今は切羽詰まってきている時期。生徒も中1の早い段階から「受験」を求められ疲れている。私立入試で萎えてしまって、気持ちが持たない、併願で公立を希望しても受験しない例もある。悩んでいる。是非、中学校とも共同しながら公立として何ができるのか検討したい。

超勤時間。中学校でも厳しい実態。管理職として悩ましい。うまく、ずるく、段取りよく、合理的会議・運営を。ボランティア精神だけではもたない時代になっている。

評議員：お礼。2年生の「生活科」の授業。小学校には「木がない。」朝のお願いでのビオトープ受け入れ。児童にとっても身近な学校、お兄さんお姉さんとしてのイメージがある。

アンケートの結果について。生徒・保護者とも②③に関して「命」の項目肯定値高い（70%～84%）要因は？

校長：人権室長が学期ごとに講話する。他校には無い。内容も「命を大切に」というわかりやすい話。福祉科がある。知らないうちに学び取っている。車いす利用の生徒の受け入れに際しても、違和感なくやっている。普通は「とまどい」があるものだが、「共に学ぶことが当たり前だ」と教師が接する姿を見て、生徒は育っている。

評議員：「平野キャリアスタンダード」イメージがつかみやすい。自己診断について、3年生の肯定値が高い。1～2年生が少し低い。3年生になったら肯定されていくのは例年の傾向か？今年だけか？

教員：毎年、3年になるにつれ肯定値は高くなる。生徒と教員の信頼が増す結果か。

教員：学年が上がると「在籍数」が減る。残った生徒へのアンケート実施という側面から肯定値は上がるのかも。加えて「残った生徒、ぜひ卒業させよう。」という教員の共通認識もできる。

評議員：「社会の厳しさ」を生徒に伝えた？

教員：集会にて「生まれたときに人生決まる。」という話をした。本校でも、学費面で進学厳しく、就職に転向する例ある。まさか、我が子が大学に行くと思っていない保護者もいる。用意していない。自分の子だから「どうなってもいい」ではない。子は別人格。世の中の事にアンテナを張ってほしい。

評議員：生徒が多様化する中、平野高校には頑張ってもらっているとを感じる。進路未決定者の今後の動向について見込みは？

教員：何パターンかある。①落ちて怖がっている、②当初フリーター志望が周りの決まってく様子を見て不安になり就職に転向、③進学から就職に転向など。継続して就労につなぐ支援をする。3月までの就職は難しい者については、学校以外の支援機関につなぐよう努力する。地域で継続的に支援ができるよう「つなぐ」意識を大切にしたい。

評議員：地域の代表として、私立高校の理事もしている。私立はお金の使い道も自由度が高い。公立高校の生徒の実態は、実に多様化している。平野高校には丁寧なやってもらっていると実感する。もっとどこかで発信できるようになれば。今後のアピールポイント。中学から来てもらう方策か。私学よりもきめ細かく、生徒保護者の目線に立っている。もっとアピール出来たら。

評議員：福祉科ある。地域の方との関りがもっとあってもいいのでは。授業だけでなく、近くの福祉関連の法人と連携たら良い。ボランティア部など。実際に仕事をみて授業に活かせる部分も多いのでは。

## 5. まとめ

私学からの強いプッシュを感じる。社会階層の固定化は学校教育で打破。改めて認識。今後活かしたい。